

国内の大学医学部の図書館、附置研究所、関係官公庁などに配布された。

年報の内容は、研究所及び附属国際放射線情報センターの研究概要と業績一覽(和文及び英文)、平成七年度科学研究費等受領状況、平成七年度原研学術講演会記録、原研セミナー記録、特定研究報告書、平成七年度原研自己点検・評価報告などが掲載されている。

年報は、昭和三十四年の原子放射能基礎医学研究施設発足時より毎年発刊され、昭和三十七年に現在の年報の形となった。多少編集形態が変更されたが、当初より和文と英文による報告書形式をとっており、三十七年前から現在で言う自己点検記録を世に出していたことになる。

年報を遡ると、そこには各部門だけでなく世界での研究テーマの動向、社会的活動の変遷等貴重な資料が豊富にみられる。毎年発行する年報は原医研の貴重な宝となっている。

理学部から二種類の自己点検・評価実施報告書が刊行

この五月、理学部では、平成七年度自己点検・評価委員会の活動報告を二冊の報告書にまとめた。

一冊は、広島大学理学部・理学研究科自己点検・評価実施報告書3「新しい理学部を目指す改革改善」(A4判、一〇〇頁)で、もう一冊は「教官からみた理学部の教育改革一新カリキュラムについてのアンケート調査から」(A4判、五十八頁)の二冊。

特に理学部では、平成六年度に、学生による授業評価を学生アンケートをもとに実施するとともに、平成七年度には高校へのアンケート調査を実施し、今回の教官アンケートが第三弾のアンケートとなった。

今回のアンケートでは、「あとがき」に七月特別号で発表された。

「アンケート調査用紙に書かれた教官の意見を読むと、日頃から教育に頭を痛めている様子がよく解る」とあるように、カリキュラムと学生との間に挟まった教官の苦悩がある程度浮き彫りにされている。

なお、これらの報告書はそれぞれ二〇〇部印刷され、理学部全職員、他学部等(各学部二部)、他大学等に配布された。

第一回広島大学同窓会連合会総会開催(予告)

広島大学が誕生して四十六年。これまで学部ごとにあつた同窓会を一本化し、広島大学同窓会連合会が発足したのが昨年の十月。この同窓会連合会の発足記念行事として、十一月末に第一回総会が開催される予定です。広島大学出身の同窓生が、「熱き心」を持って、「新たな歴史」のために、「力強い心意気」を持って集うことになりそうです。

とき・平成八年十一月二十九日(金)

十八時〜二十時三十分

ところ・リーガルロイヤルホテル広島

「ロイヤルホール」

広島市中区基町六一七八

(TEL)〇八二五〇二一一二二

会費・一万円

今後、二年に一回連合会総会をもって、広島同窓生の心意気を示す予定になっているとか。就職難の昨今、学生へのバックアップを期待したい。

なお当日は、本学の同窓生である久保亘氏(第一次橋本内閣大臣)が出席予定。

医学部卒業生、松本清張賞を受賞

第三回松本清張賞受賞作品が、「文藝春秋」七月特別号で発表された。

執筆者は、昭和六十年三月に医学部総合薬学科を卒業した森福都(もりふく・みやこ)氏で、受賞作の題名は「長安牡丹花異聞」。同誌の略歴欄によると、森福氏は昭和三十八(一九六三)年三月、山口県大島郡生まれ。会社勤務を経て現在、主婦で、「薔薇の妙薬」(講談社)で第二回ホワイトハート大賞エンタテインメント部門優秀賞を受賞している。

第三回松本清張賞の選考委員は、阿刀田高、井上ひさし、佐野洋、高橋克彦、津本陽の五委員で、応募作品八百六十一篇から選ばれた。大店の都長安での、黄良と崔融の義兄弟が、夜光するという夜光牡丹を売って儲けようとする。新種の牡丹を求めて狂奔した時代である。そして牡丹もむむ艶やかな小蘭。夜光牡丹の発光の原因は発光細菌による「光り病」。夜光牡丹を買うもたちまちの驟雨により夜光細菌が流されて、面目を失った宦官の王学理。結局は夜光富貴花の麗容が幻となったが……。

今回の受賞について、森福氏の指導教官だった石橋貞彦教授は「森福(旧姓川西)都さんは、四年生の卒業実習で私どもの研究室に一年間在籍され、白血球による活性酸素産生の研究グループに加わっていた。いかにいかにも島育ちといった純朴な感じで皆と仲良く過ごされたが、その間の熱心な実験の成果は、国際的な生化学誌(略称B B R C)の報告文等に名を連ねている。

一方で美術部に属して、芸術面でも才能を発揮され、本通り、の画廊での展覧会を皆



で見に行った記憶がある。感受性豊かな人だと思っていたが、小説を書き清張賞を受賞するとは、ただ驚くばかりで喜んでいる」と語っている。

教壇に立つ卒業生

法学部では後期から、社会の第一線で活躍する卒業生たちによる特別講義を開講する。「実社会と法学部」と題するこの講義は、法学部の正規の講義(2単位)で、講師には(本学OB・OGを中心に)各界で活躍中の十四名の方を予定している。講義はこれらの方々による「連続講演」の形式をとる。

今回の企画について辻法学部長は、「この講義は、一言でいえば、法学部生のための先輩による人生ガイダンス、といったもので、仕事のこと(その楽しさや苦話)、学生時代のこと(何を、考え、学んだか)、社会生活で生きていることなど)、学生に望むこと(何をいかに学ぶべきか、学生時代に何をしておくべきか)などをお話しいただく。学生が、講義を通じてさまざまな仕事の実体について「社会」を実感し、あるいは勇気をもち、あるいは発奮し、来たるべき社会への門出に向けて準備をする契機になるのではないかと期待している」と講義のねらいを語っている。講師の予定者は次のとおり。

月日	講師	現職	講義題目
十月十七日	成宮正敏 (昭二八政経学部卒)	ナルミヤ社長 ・同窓会会長	「ひとりの中小企業家の歩んだ道」
十月二十四日	磯野泰子 (昭三四政経学部卒)	山口放送取締役 ・テレビ制作局長	「仕事と人生ーいきることくらすこと」
十月三十一日	石井泰行 (早稲田大卒)	賀茂鶴酒造社長	「西条の酒とその周辺の交友」